

(注) 本報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

ベナン月報(2023年5月)

【内政】

- 3日、仏NGO「国境なき記者団」(RSF)が発表した報道自由度ランキングにおいてベナンは180か国中112位で、2022年(121位)から9位順位を上げた。(4日、Le Matinal 紙)
- 23日、アベノンシ外務大臣が解任された旨報じられた。(24日、Le Matinal 紙他)

【外政】

- 5日、ロジャース米国下院軍事委員会委員長一行がタロン大統領と会談し、軍事及び治安分野を含む対ベナン開発協力につき協議した。(8日、La Nation 紙他)

【治安】

- 1日夜、アタコラ(ATAKORA)県ケル(Kérou)で、身元不明の武装集団の襲撃により住民10名以上が殺害された。ベナン国軍による反撃作戦により、テロリスト4名が殺害、2名が逮捕された。(11日、La Nation 紙)

【経済】

- 3日、無償資金協力「コトヌ市ベドコ交差点立体交差建設計画」付帯工事契約締結が閣議決定された。(4日、La Nation 紙他)
- 世界銀行の2023年世界運送パフォーマンス指数報告書において、ベナンは67位で、西アフリカ諸国中最高順位となった。(9日、L' Economiste 紙他)
- 9日、経済・財務省は、スタンダード・アンド・プアーズ(Standard & Poor's)はベナンのソブリン格付けをB+/安定予想に据え置いた旨発表した。(10日、La Nation 紙他)

【文化・その他】

- 16日、駐ベナン日・米・仏・独・加・スイス・ベルギー・オランダ・EU大使館・代表部等が共催し、仏学院(Institut français)でウクライナ映画祭が開催された。(23日、Le Matin Libre 紙)

※下記内容は、La Nation 紙、Le Matinal 紙、L' Evénement Précis 紙、L' Economiste 紙および Le Matin Libre 紙の記事を元に記載したものです。

【内政】

- 3日、2024~2026年度予算方針が閣議決定された。(4日、La Nation 紙)
- 3日、仏NGO「国境なき記者団」(RSF)が発表した報道自由度ランキングにおいてベナンは180か国中112位で、2022年(121位)から9位順位を上げた。(4日、Le Matinal 紙)
- 11日、憲法裁判所は、本年1月の国民議会議員選挙で当選した後に議員辞職したヘホメ前インフラ・運輸大臣の議員復職を認める決定を下した。(15日、La Nation 紙、Le Matinal 紙及び L' Evénement Précis 紙)

- ・ 15日、国家独立選挙委員会(CENA)は、国民議会及び市議会に議席を有する進歩再生党(UPR党)、共和党(BR党)、新興ベナン党(FCBE党)及び民主党(Les Démocrates)の4政党に政党交付金を支給した。(16日、La Nation 紙、Le Matinal 紙、L' Economiste 紙)
- ・ 20日、信頼再興党(Restaurer la confiance)は、解党及び進歩再生党への合流を決定した。(22日、La Nation 紙)
- ・ 22日、国民議会議長決定及び大統領令により、憲法裁判所裁判官後任人事(7名全員交替)が決定された。(23日、Le Matinal 紙及び Le Matin Libre 紙、26日、L' Evénement Précis 紙)
- ・ 23日、アベノンシ外務大臣が解任され、後任はアジョヴィ駐ナイジェリア・ベナン大使の可能性が高い旨報じられた。(24日、Le Matinal 紙、Le Matin Libre 紙及び L' Evénement Précis 紙)
- ・ 24日、財政監査総局による監査官15名の新規雇用が閣議決定された。(25日、La Nation 紙、Le Matinal 紙及び L' Evénement Précis 紙)
- ・ 民主党(Les Démocrates)ウンデテ党首は、タロン大統領により野党代表者に任命された。(31日、Le Matinal 紙、Le Matin Libre 紙及び L' Evénement Précis 紙)

【外政】

- ・ 2日、ディアガナ世界銀行副総裁がタロン大統領と面会した。(3日、La Nation 紙、Le Matinal 紙及び L' Evénement Précis 紙)
- ・ 5日、ロジャース米国下院軍事委員会委員長一行がタロン大統領と会談し、軍事及び治安分野を含む対ベナン開発協力につき協議した。(8日、La Nation 紙、Le Matinal 紙及び L' Evénement Précis 紙)
- ・ 23日、西アフリカ諸国中央銀行(BCEAO)総裁はタロン大統領と会談し、会談後の記者会見でベナンの経済情勢に満足である旨表明した。(23日及び24日各紙)

【治安】

- ・ 1日、アトランティック(ATLANTIQUE)県の国立トッフオ士官学校で、古くなった装備品の輸送中に武器庫で爆発事故が発生し、ベナン国軍兵士10名程度が負傷した。(2日、Le Matinal 紙)
- ・ 1日夜、アタコラ(ATAKORA)県ケル(Kérou)で、身元不明の武装集団の襲撃により住民10名以上が殺害された。ベナン国軍による反撃作戦により、テロリスト4名が殺害、2名が逮捕され、逮捕された両名に対しては経済犯罪・テロリズム防止裁判所(CRIET)での裁判手続きが開始された。(11日、La Nation 紙)
- ・ 9日夜、アタコラ県ケル及び同県マテリ(Matéri)で、即席爆発装置(IED)の爆発により計5名が死亡した。(11日、Le Matinal 紙)
- ・ 17日、ウエメ県セメ・ポジ(Sèmè-Kpodji)でトラックと小型バスが衝突し、バスの乗客1名が死亡、10名が負傷した。(19日、La Nation 紙)
- ・ 19日、ドッサCRIET長官は、ベナン国内に現在、ベナン、ニジェール、ナイジェリア及びブルキナファソ等の計9国籍746名のテロ容疑者が収監されている旨述べた。(23日、Le Matinal 紙)

- ・ 30日、CRIETは、国際的な麻薬取引の疑いで、オランダ人男性に懲役15年及び罰金1000万CFAフランの判決を言い渡した。(31日、L'Événement Précis 紙)

【経済】

- ・ 3日、無償資金協力「コトヌ市ベドコ交差点立体交差建設計画」付帯工事契約締結が閣議決定された。(4日、La Nation 紙、Le Matinal 紙及び L'Événement Précis 紙)
- ・ 4日、コトヌ空港を拠点に、ベナン企業クロノス・エアラインズ(Cronos Airlines)社が定期航空便の運航を開始した。アビジャン(コートジボワール)便が週3日(火・木・土)、ニアメ(ニジェール)便が週2日(火・土)、それぞれ運航予定。(8日、L'Économiste 紙)
- ・ 5日、コートジボワールで、ベナン、ブルキナファソ、コートジボワール、ニジェール及びトーゴ各国の運輸所管大臣を集めた会合が開催され、各国首都を結ぶ全長2928kmの鉄道網建設計画につき協議が行われた。(5日、La Nation 紙、9日、L'Économiste 紙)
- ・ 世界銀行の2023年世界運送パフォーマンス指数報告書において、ベナンは67位で、西アフリカ諸国中最高順位となった。(9日、L'Économiste 紙、11日、La Nation 紙及び Le Matinal 紙)
- ・ 9日、経済・財務省は、スタンダード・アンド・プアーズ(Standard & Poor's)はベナンのソブリン格付けをB+/安定予想に据え置いた旨発表した。(10日、La Nation 紙、Le Matinal 紙及び L'Économiste 紙)
- ・ 西アフリカ諸国中央銀行は、西アフリカ経済通貨同盟(UEMOA)諸国の2023年第二四半期経済成長率予測を5.8%と発表した。(25日、La Nation 紙)
- ・ 世界銀行は、西部・中央アフリカ諸国における統計能力強化及びシステム最新化のため、国際開発協会(IDA)によるベナンを含む8か国への計4億6000万米ドルの供与を決定した。(31日、L'Économiste 紙)

【文化・その他】

- ・ 4月28日、ベナン・オリンピック委員会及びサッカー、ハンドボール、バレーボール、バスケットボールの各連盟等への合計約4億CFAフラン(約9150万円)の補助金給付式典が開催され、ホメキ・スポーツ大臣が出席した。(2日各紙)
- ・ 3日及び5日、在ベナン日本国大使館は、国費外国人留学生(大使館推薦)説明会を実施した。(11日、Le Matinal 紙)
- ・ 16日、駐ベナン日・米・仏・独・加・スイス・ベルギー・オランダ・EU大使館・代表部等が共催し、仏学院(Institut français)でウクライナ映画祭が開催された。(23日、Le Matin Libre 紙)
- ・ 24日、第50回世界ベタンク選手権大会のコトヌ(Cotonou)市内アマゾン像広場における開催に向け、同広場の大規模改修が閣議決定された。同大会は9月8日から17日に開催予定。(25日及び26日各紙)